

多摩市立中学校 9 校の司書がおすすめします!

お仕事の本



発行者: 多摩市立中学校 学校図書館司書一同

みなさんは将来、どんなお仕事がしたいですか?こうなりたいという夢はありますか?
なりたい職業が決まっているという人もいれば、「自分が何になりたいか分からない」
「どんな仕事に向いているか分からない」という人もいるかもしれません。

でも、焦らなくて大丈夫。自分の「好きなこと」や「興味のあること」を入口にどんな職業があるのか視野を広げていきましょう。あなたが興味をもてそうなことがきっとあるはず。みなさんが将来に向けて 1 歩踏み出す羅針盤となるような本に出会えますように!

(ここに紹介してある本が学校図書館に全て揃っているわけではないので、気になる本があったら司書に聞いてみてね。)

どうして

働くの?

『なぜ僕らは働くのか?』

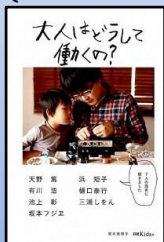
—君が幸せになるために考えてほしい大切なこと—

『大人はどうして

働くの?』

宮本恵理子著

日経 BK 社



池上彰著 学研プラス



『働くってどんなこと?』

人はなぜ仕事をするの?』

ギョーム・ル・ブラン著 岩崎書店

世の中には
たくさんの仕事があるよ!



ひと目でわかるマップ



『なるには BOOKS 職業マップ』

『図書出版ペリカン社公式サイト』より

なにになりたいか
自分でもよく分からない

『働く人の夢』

—33 人のしごと、夢、きっかけ—

日本ドリームプロジェクト編 いろは出版

『今からはじめる!

就職へのレッスン』

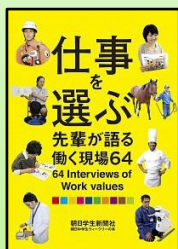
杉山由美子著 ペリカン社



『仕事を選ぶ』

—先輩が語る働く現場 64—』

朝日中学生ウィークリー編集部編 朝日学生新聞社



『14 歳からの仕事道』

玄田有史著 理論社



世の中の仕事は
つながって
いるよ!



ひと目でわかるマップ



『13 歳のハローワークマップ』

『13 歳のハローワーク公式サイト』より

未来の職業

どんな職業があるの？

『大人は知らない

今ない仕事図鑑 100』

澤井智毅著 講談社



『女子のための「手に職」図鑑——生困らない』

華井由利奈著 光文社

『5分でわかる10年後の自分

2030年のハローワーク』

図子慧著 KADOKAWA



『10年後に失敗しない

未来予想図』

森永卓郎著 神宮館



『未来をつくる仕事図鑑 1・2』

学研プラス編 学研プラス

*表紙画像等は、出版社の許可を得て掲載しています。

～1冊につき1つの職業が書かれている本を紹介～

その仕事への情熱、誇り、苦勞も書いてあります。どれもおすすめ!

『虹色のチョーク』

—働く幸せを実現した町工場の奇跡—

小松成美 幻冬舎

なぜ仕事をするの？

と聞かれたらあなたなら

どう答える？お金のため？

夢の実現のため？

1つの明確な答えがこの本の中にある。

日本でいちばん大切にしたい会社として

注目されているチョーク会社で、仕事を

する喜びを全身に^{たまたま}湛えた知的障がい者

たちの姿から、私たちは人が働くことの

根本的な意味を学ぶことができる。

そうか、「働くこと」は幸せなことなのだ。



『あめつちのうた』

朝倉宏景 講談社

高校球児の聖地である甲子園球場。

そのグラウンドを最高の状態に守り続けて

いるのは、「阪神園芸(株)」のグラウンド

キーパーである。

入社1年目の雨宮大地は、各々の悩みを

持つ仲間たちと関わりながら、一人前の

グラウンドキーパーを目指す。選手がケガを

しないで存分にプレー

できるように!芝生や土と

向き合うプロの技と苦勞、

その努力!!野球ファン

でなくても楽しめる一冊。





『本日は、お日柄もよく』

原田マハ 徳間書店

主人公ニノ宮こと葉は、幼馴染の結婚式で、空気を一変させるほどの感動的なスピーチに出会う。衝撃的なスピーチは、伝説のスピーチライター、久遠久美の祝辞だった。魅せられたこと葉は、即弟子入り。人と人をつなぐ言葉、世界さえも変えてしまうスピーチ、想いを伝えるためのテクニックなどを、奮闘しながら学んでいく。

「言葉は世界を変える」と信じて、大きな仕事に挑むこと葉の成長物語。



『車いす弁護士奮闘記』

高田知己 金融財政事情研究会

バイクで転倒する大事故によって、車いすがなければ一歩も動けなくなった著者が、車いすに乗るようになった後に司法試験に挑戦し、長い受験生活を送った後、最終合格を果たし、弁護士として活躍する様子を記した奮闘記。弁護士はどんな人でもその個性を生かすことができる職業、夢中で打ち込める仕事と言える。弁護士の業務内容も丁寧に紹介。車いす弁護士として、バリアフリーについても触れる。



『神去なあなあ日常』

三浦しをん 徳間書店

高校の勉強も好きではなく、就職も気が進まなかった主人公平野勇気に、担任の熊やんが「就職先を決めてきてやったぞ」という。林業に就業することを前提に国が助成金を出している「緑の雇用」制度に勝手に応募されていたのだ。初めはケータイも圏外の神去村から逃げ帰ることはばかり考えていた勇気だが、村の人達と触れ合い、山火事から村を守り、神事に参加するうちに…。はたして、勇気の実選は？



『標本バカ』

川田伸一郎 ブックマン社

著者は国立科学博物館の動物研究者。動物たちの進化や変異を見つけるため、多くの個体を調べている。そこで欠かせないのが動物の死体集めと標本づくり。小さなネズミから巨大なゾウまで、事故や病気などで亡くなった動物を全国から駆使して集めるのだ。標本製作中に思わぬハプニングも続出！動物の真の姿、命の尊さも考えさせられる、動物研究者の日常が垣間見える軽妙なエッセイ。



『プリティが多すぎる』

大崎梢 文藝春秋

4月の異動で週刊誌の編集部から中学生女子を対象にしている月刊誌のピン編集部に配属された主人公の佳孝。初めは、また早く配置転換されないかと思っていたが、スタッフの仕事ぶりやモデルの少女たちと関わるうちに、仕事に対する姿勢が変化してきて…。

16,000通を超える応募があった雑誌専属モデルの一般公募オーディション。編集部はどんな子を選ぶのか?!



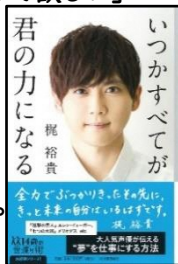
『いつかすべてが』

君の力になる』

梶 裕貴 河出書房新社

『進撃の巨人』などの話題作で主役を務める実力派声優として名高い著者。中学生の時に声優になる!と決めてからの山あり谷ありの日々。その著者が、何度も語りかける言葉がある。「今はまだ将来のことは分からなくても大丈夫。ただ、目の前のあらゆることに本気でぶつかって欲しい」

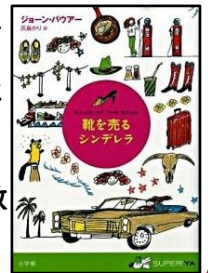
と。声優という仕事の厳しさゆえの面白さや楽しさをこれからの若者へ向けて熱く優しく語り尽くした一冊。



『靴を売るシンデレラ』

ジョン・パウアー 小学館

靴のチェーン店でアルバイトをしているジェナは、それぞれの靴の良いところと悪いところを理解して覚えている。そのためお客様の求めている靴を上手に売ることがができる。チェーン店の社長と副社長は、品質の良い靴を売るか、価格の安い靴を売るかで対立し、ジェナは社長のドライバーとなって靴店を巡ることになる。世界一の靴のセールスマンがジェナに教えた販売の秘訣とは?



『天才はあきらめた』

山里亮太 朝日新聞出版

著者は第一線で活躍する芸人。彼は天才ではない。何気なくツッコむ一言も実は鍛え抜かれたワードなのである。芸人とは、ひとを笑わせることに全力で取り組む特殊な職業。それは「職業」なのか「生き方」なのか。情熱ゆえの暴走や失敗、嫉妬心や欠点さえも努力するための燃料とし、ストイックに人生を切り開いていく姿勢に驚かされる。終わりのない努力の先に見えてくる景色とは…

